

## 令和3年度 第1回 南海医療センター地域協議会 議事概要

【日時】 令和3年11月19日（金）

【場所】 新型コロナウイルス感染症流行により書面開催

【議題】 1. 南海医療センターの診療体制について  
2. 診療実績について  
3. 新病院整備工事終了について

【出席者】（外部委員）

行政代表者 大分県南部保健所長 軸丸 三枝子 様

行政代表者 佐伯市福祉保健部健康増進課長 加藤 壮二 様

医師会代表者 一般社団法人佐伯市医師会長 島村 康一郎 様

関係医療機関 すどクリニック院長 簀戸 聖子 様

病院利用者代表 山中 琢磨 様

計5名

（南海医療センター）

院長 森本 章生

副院長 溝口 哲

看護部長 奥野 美穂

事務長 小野 宏

計4名

【概要】

議題1 「南海医療センターの診療体制」について

（令和3年度の新体制紹介について）

副院長、診療統括部長、医局長、常勤医師総勢21名の紹介。

令和2年4月1日より新規開設の救急科を紹介。

（ヘリポートの運用について）

令和2年7月13日より運用を開始し、現在まで22例の要請を伴う診療を行っている。

ヘリポートの運用は当院に限らず、南部医療圏の救急告示病院からの搬送にも利用していただいている。

（臨床研修医の受入について）

令和2年度に2名、令和3年度に1名の臨床研修医を受入れ、後進の育成にも医局をあげて取り組んでいます。

## 議題 2 「診療実績」について

(診療実勢について)

佐伯市の人口減少、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、外来患者数ならびに入院患者数が減少傾向にあると考えられる。

心臓カテーテル検査関係は、3年前に比べ徐々に増加、内視鏡検査関係は内容により横ばい、やや減少となっている。

全身麻酔下手術件数は増加、人工透析患者数も増加しており、人工透析を必要とする症例の増加と、新病院になり透析ベッド数を60床に増床したことなどが考えられる。

心臓カテーテル検査・腹部外科手術・人工透析は、当院が中心となって担っている領域であり、今後とも体制を維持していきたいと考える。

## 議題 3 「新病院整備工事終了」について

(新病院整備工事終了の報告について)

平成29年より開始した新病院整備工事が、令和2年12月をもってすべて終了した。新病院は免震構造9階建、屋上にヘリポートを有しており、旧病院棟1棟を残し大会議室および研修室の改修整備を行った。

令和元年12月に竣工式を執り行い、令和2年12月にグランドオープンを迎えた。

新病院の各フロアの設備、旧病院棟の大会議室・小会議室等の紹介。

南海医療センターとして県南医療圏の急性期医療を担う中核病院として、地域医療を支えていく所存です。

-以上-